

効果的な中国語学習法の開発と実践

The Development and Practice of Effective Methods for Learning Chinese

ビラルール・イリヤス*

Bilal ILYAS

1. はじめに

「教育」とは、「学習教材」、「学習者」、「その時代」の三つの要素に密接に関連するものなので、この三つの要素を念頭に置かずに納得できる「教育」や「学び」を語る事が出来ないだろう。教育は社会の政治体制と技術力の上に成り立っているものであり、その意味で、時と場所によって教育内容や教育手法が変わってくるのが当然である。「どんな時代」で「何を用いて」・「どんな手法」で「誰を教育する」という問題を明確にすると、学習者の状況や教育に使う教材・手法などが明らかになってくるので、教育を効果的にするには何をすべきかという問題が見えてくるだろう。よって、ここでまず、学習教材の現況、学習者の状況および今日の情報通信環境の変化という3つの要素について、簡潔に触れておくことにする。

周知のように、単語・語彙の学習は、語学学習の重要な一環と言うべきである。だが、単語や語彙の学習とは、ただ単にそれぞれの単語や語彙を一つずつ記憶し覚えていくという単調な作業の連続であるため、一定の語彙力を身に付けるには多大な時間と労力が必要となる。今までのように、単語をただ単に提示するだけの学習教材では、紙面上の制約もあり、それぞれの語に、その語を用いたフレーズや用例が多くても一つや二つしか提示することができなかった。従来の教材形式では、各々の語に対応する特定のフレーズや常用語の学習ができたとしても、その語に関連する語やその

語を用いたより多くの常用フレーズ等を学ぶことは、多くの補助教材を利用しない限り事実上実現できないことだった。これまでのやり方では、学習者の学習した語彙を用いる表現が限られるので、学べる実用的な表現が量的に乏しく、学習者には上達・達成感や自己成長感が感じ難くなる。やがって、学習意欲が低下し、学習を諦めてしまうことにもつながる。語学教育の現場で、教育効果、学習スピードを思うように上げられない重要な原因の一つは、まさにこの単語学習段階にあると言っても過言ではない。

一方、今日の全入時代では、入学者の基礎学力や学習意欲はさまざまであり、またその中に外国語学習になんらかのアレルギー反応を持っている学生がいるのも事実である。あえて極端な言い方をすれば、自分の外国語を話せる未来像が見えない、自分が外国語なんかできるようになるわけがないと思っている者も今の学生の中には少なくない。特に地方の中小高等教育機関にこのような現象が目立つ。

どうすればより多くの学習者が学習内容に興味を示すのか、どうすれば彼らに学びやすい環境をつくり、彼らのモチベーションを上げることができるかを工夫しなければ、現況では従来の教育手法だけに頼って、より多くの学生に効果的な学びをしてもらうことが難しいと言わざるを得ない。

だが、視点を変えると、学習者の学習を効率化する環境が整っていることが見えてくる。今では、

*環境ツーリズム学部教授

情報通信技術が発達し、インターネットやネットワークベースの学習環境が日々進化してきている。学習者の層やニーズに合わせて、学習しやすい形で教材を提供することができるようになってきている（[1]～[10]参照）。パソコンはもちろん、iPhone などのような携帯便利な器具一台だけで、語学学習のあらゆる訓練を参考書やその他の学習用具なしでもこなすことが可能となっている。ポータブル機器一台で従来の単語帳の機能はもちろん果たせるし、その上に、単語の読み上げなども簡単にできる。工夫しだいで、発音の訂正を行うことも可能である。しかもこのような器具は、学習者が常時所持しているもので、勉強しようとさえ思えば、何時でも、何処でも勉強できる状態にある。つまり、学習環境改善に有利な条件が整っていると見える。

しかし、如何に優れた学習環境に恵まれようが、如何に革新的な学習サポート機材を持っていようが、学習者本人の努力なしでは、語彙力が自然に学習者の身に付くということはありません。したがって、学習を効率化し、スピードアップさせるためには、学習者の学習環境を改善すると同時に、学習者に学習内容に興味を持たせ、彼らのやる気を起こすことが不可欠である。

ここで、どのようにして学習者のモチベーションを上げたかを論じる前に、まず、中国語単語学習の留意点について簡単にまとめておこう。

2. 中国語単語学習上の留意点

他の言語に比べると中国語にどんな特徴があるか、中国語をより速く、より効果的に学ぶにはどんなことに気をつけるべきかを簡単にまとめておく。

中国語は基本的に漢字で表記される言語である。一つの漢字は一つの音節で読まれ、一つの意味を持つ。いわゆる「一字、一音、一義」である。言い換えると、中国語では、たとえどんな発音であれ、一つの音節が少なくとも一つの意味を表す語となる。例えば、「yi」「ma」「niao」「hao」「yang」などの一音節がそれぞれ「一」「马」「鸟」「羊」の読みに対応しているので、一つの明確な意味を表す語となる。これらの漢字を日本語で読むと「いち」「うま」「とり」「ひつじ」となり、二音節以上の音節で表現される。もちろん現代中国語には

「shan yang・山羊」、「mao bing・毛病」、「long tou・龙头」「dianbingxiang・电冰箱」などのように、多音節語が多く存在する。しかし、その場合でも、ひとつひとつの音節はその意味を失わず、多音節語の構成要素としての役割を果たしている。これが、中国語と日本語やその他の言語との相違点の一つである。

中国語と日本語やその他の言語とのもう一つの相違点は、中国語は声調言語であること。声調とは、中国語の各々の音節についている音の高低や上げ下げの調子を表すものであり、原則として中国語の標準語には4つある。これを「四声」とも言う。たとえ同じ音節であっても、声調、つまり声の高低アクセントが変わるとその音節の表す意味が変わる。これが声調言語固有の特徴である。

中国語を学習するにあたって、上記の概念を学習者に理解させ、声調は注意すべき要点であることを明確にさせる必要がある。

一方では、学習し易さの面から見ると、中国語は欧米人より日本人に学びやすい語学である。漢字圏外の外国人にとって、中国語を学習するうえで、最大の難関は漢字を覚える・漢字を書けるようになることである。日本人学習者には基本的に漢字の書き方等をやらせる必要がない。逆に、漢字圏の影響もあり、日本人学習者は短期間の学習で結構難しい中国語文を読めるようになる。このことも、学習者に自信を持たせる、モチベーション向上させる要因の一つであるので、学習者に意識させることが重要である。

日本人にとって、中国語学習上の難関は発音である。そのため、ここでまず中国語の発音に関する基礎知識を簡単に整理しておこう。

中国語の発音は音節と声調の組み合わせから構成される。音声は母音かあるいは子音プラス母音で構成され、現行のピンイン表記ではおよそ400個ある。声調は第一声から第四声までの四つある。基本的には、各々の音節には四つの声調がある。単純計算では中国語の発音は1600個になるが、一部は発音に無いので、実際ある発音は1330いくつになる。簡単に言えば、これが日本語の50音図に相当するものであり、中国語の発音が難しいと印象を与えている主な原因となっている。だが、中国語の発音学習には一定のルールがあり、そのルールさえ分かれば、結構簡単に、短時間で覚え

られる。そのために、発音学習のコツや注意事項を分かりやすくまとめ、それらの難点をより効率的に克服できる手法を用意することが重要である。

発音学習では、中国語の発音を正確にマスターするには、音節の正確なマスターと声調の正確なマスターの二段階が必要であり、音節を構成する要素には、日本語の発音に現れない発音要素と日本語の影響を受け易い発音があることを忘れてはいけない。具体的に言うと、中国語発音学習には、日本語母語者に難しいと感じる10個の発音要素がある。そのなかで、zh, ch, sh, r, e, ü, er の7つが日本語の発音にない発音要素で、an, n, ng の3つが日本語の影響を受け易い要素である。これらの難関を克服しない限り、中国語の正確な発音をマスターすることはできない。逆に言うと、この10個の発音難点さえを克服できるなら、中国語は日本人学習者にとって、比較的に学び易い言語である。

一般的に言えば、単語や語彙の学習難易度の問題は基本的には「正確に聞き取れるか」、「正しく読める・言えるか」、「正しく書けるか」、「正しく使えるか」という四点に帰着される。以下では、この四つの要点を踏まえたうえで、如何にして中国語単語学習をスピードアップさせたかについて論じることにする。

3. 学習を効率化するために取り入れた技法

一般論だが、学習を順調に展開し、学習効果が短期間で現れるには、以下の要素①と②の連携プレーが必要不可欠である。

- ①学習者のやる気を起こす教育手法
- ②充実した学習内容を順序良くサポートする教材システム

上記の①と②のどちらかの一方が欠けても、学習の効率を上げることがうまくいかない。いくら良い教材があったとしても、学習者のやる気が希薄なら、学習成果が思うように上がらない。その逆も成り立つ。つまり、いくらやる気があっても、学習内容が学習課程に合った、豊富で充実した教材がなければ、学習が捗らない。

以下では、中国語特別コースで学習者のモチベーションを上げるためにどのような手法を取り入れたかを紹介する。

3.1 モチベーションを上げるための工夫

学習者のモチベーションを上げるには、まず学習者を学習内容に対して興味・関心を持つようにする。それから「やればできるようになる」という自己成長を実感できる形で示す。この二点が学習雰囲気改善とやる気を出すために必要不可欠である。

日本の語学を専門とする大学以外の大学では、語学教育は教養科目の一環として設けられているのは一般的である。そのためか、一部の学習意欲の高い学生を除けば、語学の科目は、ただ単に教養科目の単位を取得するために選択する学生が殆どである。特に、英語以外の初習外国語科目にはこのような傾向が目立つ。筆者が中国語の授業を担当している関係で、時々中国語授業の受講者に「どうして中国語の授業を選択したか」と問いかける。この問いに「中国語が面白い。」「中国が好き。」「中国語にもともと興味があって、学ぼうと思っていた。」などのような中国語学習を積極的にしようという目的や意欲・熱意を持っている学生はごくわずかである。その代り、「(中国語では)漢字を使っているから、比較的に学び易いと思った。」といったような返事が比較的が多い。つまり、なんとなく他の語種に比べると比較的簡単だと思って中国語を選択している学生が多いということが分かる。その他にも、「中国語はどういう言語かを知っておきたかった。」と答える人もいれば、「この時間帯が空いていたから、空き時間を埋めるために履修した。」とか、「友達が中国語をとっていたから私もとった。」などのような消極的な動機で授業に参加してくる学生もいる。

一般的に言えば、語学というのは、積極的にやらない限り身につかない物である。上記のような、学習者の大半に熱意や積極性が見られない、そのうえ学習者にはっきりした学習目的もない状況では、学習効果を上げるには、まず彼達のやる気を起こし、学習に挑む雰囲気を正すことが先である。そうしない限り、学習効果が思うように上がらないことは明らかである。そのためにここでは、学習意欲を上げるためのムード作りを重視しながら授業を展開している。特に、最初の段階では語学学習のメリットや社会的必要性等を意識させることに専念し、学習雰囲気作りに力を入れている。

何故このような過程をあえて授業に取り入れる必要があったかについて、私見を述べておこう。

学習者に効果的に勉強してもらうには何が必要なのかと考えると、単純に良い教材や良い教員だけで学習効果がうまく捗ると言い切れないことが分かる。勉強させるということは、相手があることなので、教える側と教わる側の意思の疎通が重要である。教材や教員といったサポート要素はもちろん大事だが、それと同時に教わる側の学習に対する意欲・姿勢がもっとも重要である。良い教材を作れば、それだけで学習者の学習効果が上がるという保障は何処にもない。そこで、学習者のやる気を起こすには何をすべきかということ考えた末、まず学習内容に興味を持たせることにした。それから、彼達に「自分もできるようになったんだ!」という自己達成・自己成長を感じさせる手法が必要だと考え、その手法を取り入れ、授業を展開してみることにした。その結果、学習に積極的である学生はもちろん、学習に消極的な学生でも、一旦学習に目覚めると、驚くほどのスピードで上達・成長することが分かった。というより、筆者の担当するクラスでこのような学生が現に数人現れた。

3.1a 学習内容に興味を持たせる工夫

ここではまず、語学力とは何か、それを身につけることにどのような意味があるか。つまり、一定の語学力を身につけることによって、どれだけのメリットが生じ、自分の将来はどのように変わるかななどを説明し、語学学習の重要性を再認識させている。

そのために、言語とその分布地域を関連付け、世界で一番使われている言語は何か。「世界4大言語」とはなにか。なぜ英語、中国語、アラビア語とスペイン語が「世界4大言語」と言われるか。どの言語がどの地域において重要なのかを意識させる手法を取り入れている。

一般的に言えば、今日では英語が世界言語になっていて、国際的に政治や学術交流、国際ビジネスなどに最も用いられる。英語のほかにも、他の国や地域に政治的・文化的影響を長期に渡って与えている言語がある。たとえば、中央アジア、西アジア、北アフリカ、東南アジアなどの国や地域では、アラビア語のイスラム教に伴う文化的な

影響力が強い。南米では、歴史的な要因もあり、スペイン語の影響力が強い。これらに比べると、アジア地域では中国語は重要な言語になってきている。

中国語学習者には、中国語はなぜ重要なのか、中国語をマスターすることにどんなメリットがあるかということと言語文化交流と経済交流の二つの側面から解説する。

経済的な観点から見たとき、近年、中国は急速な経済成長を成し遂げ、世界中から注目されるようになった。その背景もあり、中国語もその重要性を増してきた。

周知の通り、中国はアメリカに次ぐ世界第二の経済大国である。中国はまたあらゆる面でビジネスチャンスをもたらす世界規模のマーケットでもある。今日では、中国の経済状況が世界経済に影響を与えるようになってきている。日中間だけの経済交流を取り上げてみても、日本にとって中国は日本の最大貿易相手国であり、中国にとって日本はアメリカに次ぐ第二の貿易相手国である。日本の大手企業のほとんどが中国に進出し、さまざまな形でビジネスを展開している。このような状況にも関わらず、現状では専門知識を有する中国語が堪能な人材は社会的に不足していると言わざるを得ない。このような状況では、将来的に日中間のビジネスを真の意味で担える人材が不足すると言えるだろう。

言語文化的な側面から見ると、中国の人口は13億を超え、世界人口の5分の1を占めている。世界中の5分の1の人々と交流できるコミュニケーション能力を有すること自体が大変有義なことである。また、中国語を身につけると、漢字や言葉表現に対する理解も増すし、風俗習慣などの文化に対し再認識することもできる。

昨今の社会の動向に注目すると、今日の社会は国際化に向かっている。社会が各地域における異文化理解力、国際コミュニケーション能力を有する人材を求めている。

アジア地域において、中国の文化や経済面での影響力が大きくなっている。日中間に多少の政治的な摩擦が絶えないにしても、両国の経済や文化的な交流を考えると、中国を好きかどうかにかかわらず、中国語語学力を身につけることは将来的に有力な武器になることを中国語学習に再認識さ

せることが重要である。

3.1b 自己成長を感じさせるための工夫

前述したように、単語や語彙の学習は単調で、飽きやすいものである。学習に対する飽きを回避するために、ここでは進度に沿って単語・語彙を順序良く与える手法を取っている。与えた単語・語彙に対して特に「聞かせる」、「読ませる」、「使わせる」の三つに重点をおき、これらの練習を徹底的に行うことにした。さらに、決まった期間内で目標に達成することを求めた。詳細について次節で述べることにする。

具体的には、各段階での到達度を明確にし、決まった期間内に学習範囲内の単語・語彙をマスターし、それらを使ってさまざまな表現を作れる・使えるようになることを目指すようにした。自己成長を実感させるために中国政府公認の中国語検定試験 HSK を評価基準にしている。このようなやり方を導入した結果、一部の学習者が短期間で一定のレベルに到達した。その自己成長ぶりが、彼達の自信につながり、結果的には彼達の学習意欲が向上し、より一層上を目指すようになった。他の学生も彼達の成長ぶりに刺激され、それがコース全体の学習雰囲気の上上に繋がった。

3.1c 学習内容を定着させるための教材提示と環境作り

学習者に学習内容を学び易い形で提示し、自己成長を実感させるために、教材提示や学習環境作りの面で以下の工夫をしている。

- ①単語語彙を分類し、覚え易い形にしてから、少量ずつ提供することによって毎回の内容を無理なく覚えられるようにしている。さらに、単語・語彙を常用フレーズと連携させ、学んだ内容に

関連する表現を実際に使えるようになることを目標としている。

- ②学習内容と検定試験を連携させ、学習者に各学習段階の学習内容をクリアし、一定の基準に達していることを実感させることによって、学習に自信を持つようにし、学習者の学習意欲を高める工夫をしている。

- ③教材を自分のペースで学べるような形で提供している。

学習内容を CALL 教材や USB など提供し、他人のことを気にせず、自分のペースで学習できるようにしている。また、学習進度の速い学習者に更なる学習ができるようにするために、各場面の単語・語彙に関連性を付け CALL 教材の形で提供している。長野大学中国語 CALL 教材 (<http://www2.nagano.ac.jp/biraru/Chinese>) 参照されたい。

- ④学んだ内容を実際に使えるようにするために、各々の学習者に留学生を会話練習の language partner として一人ないし二人を付けている。学習者の実践力を養うために学んだ単語・語彙を中心に、ネイティブと対話できる学習環境を作っている。これによって学生間の交流が深まり、学習者のコミュニケーション能力が上がってきた。

- ⑤「HSK 試験」や「中国語検定試験」の過去問題集の各級を多数セット用意し、いつでも・何回でも受けられるようにし、各自の到達度を常時分かるようにしている。

4. 学習展開に取り入れた手法

長野大学では、国際化時代に相応しい人材を育成するために、「国際キャリア英語特別コース」と「国際キャリア中国語特別コース」を立ち上げた。

表 1

年次	正課カリキュラム	正課外カリキュラム	自学自習	中検目標	新HSK目標
一	授業 (週2) +ゼミ	会話強化 (初級編)	CALL教材	4~3級	2~3級
二	授業 (週2) +ゼミ	会話強化 (中級編)	CALL教材	3~2級	4級
三	授業 (週2) +ゼミ	会話強化 (上級編)	CALL教材	2~準1級	5級
四	中国協定校留学			1級	6級

これらのコースの目標は、高度な外国語コミュニケーション能力を身につけ、異なる文化や社会環境を理解し、グローバル社会における問題解決能力を有する国際的な人材を育成することである。

この節で、「国際キャリア中国語特別コース」ではどのような手法をとりいれて学習を展開したかを具体的に示すことにする。授業の流れに関する記述を分かり易くするために、まず本コースの授業形態と達成目標を提示しておこう（表1参照）。

上記の表1のように、コースの授業全体は正課授業、課外強化コースと自学自習から構成されていて、一見すると普通の授業カリキュラムと大きな変わりがないように見える。だが、本コースでは「聞かせる」、「読ませる」、「使わせる」学習に独特の手法を取り入れ、授業を展開してきた。これがこのコースの特徴的なところである。

以下では「聞かせる」、「読ませる」、「使わせる」という各項目でどのようなことを行ったかを述べることにする。

「聞かせる」ために取り入れた手法

①正課授業で行う「聞かせる」

正課授業で単語解説を行う際、各々の単語を繰り返し読み聞かせる。それから、発音上日本語の影響を受け易いところや発音上の注意事項等について説明し、学習者に読ませて発音訂正を行う。また、これらの単語を用いた常用表現や短文のリスニング教材も提供した。

②自学自習で行う「聞かせる」

各自のペースに合わせて、聞き取り練習ができるように、CALL教材で単語の読みを繰り返し聞き取れるような形で提供している。学習者は何時でも自分のペースに合わせて、聞き取った模範音声を模倣することができるようになっていく。

③会話強化コースで行う「聞き取り」

週一回、連続2コマの時間を使って、コース生に language partner たちと会話練習をさせている。学習範囲と単語量を決めて、指定した範囲内の単語の聞き取りはもちろん、それらの単語を用

表2 新HSK一級 頻出単語一覧 A～Z順

爱	读	会	买	去	岁	谢谢	字
八	对不起	火车站	猫	热	他	星期	昨天
爸爸	多	几	没	人	太	学生	坐
杯子	多少	家	没 关系	认识	天气	学习	做
北京	儿子	叫	米饭	日	听	学校	
本	二	她	名字	三	同学	一	
不	饭馆	今天	明天	商店	喂	衣服	
不客气	飞机	九	哪 (哪儿)	上	我	医生	
菜	分钟	开	那 (那儿)	上午	我们	医院	
茶	高兴	看	呢	少	五	椅子	
吃	个	看见	能	十	喜欢	有	
出租车	工作	块	你	什 么	下	月	
打电话	狗	来	年	时候	下午	再见	
大	汉语	老师	女儿	是	下雨	在	
的	好	冷	朋友	书	先生	怎 么	
点	喝	里	漂亮	谁	现在	怎 样	
电脑	和	了	苹果	水	想	这 (这儿)	
电视	很	零	七	水果	小	中国	
电影	后面	六	前面	睡觉	小姐	中午	
东西	回	妈妈	钱	说话	些	住	
都		吗	请	四	写	桌子	

いた常用フレーズや短文を聞き取れるように会話練習をしている。たとえば、“做 zuò” (やる、する) の聞き取り練習を行うとき、“做 zuò”と“左 zuǒ” (左) や“昨 zuó” (昨日) の違いをはっきり聞き分けられるまで、発音練習を行う。それと同時に、“做作业” (宿題をやる)，“做饭” (炊事する) など“做”を用いた常用フレーズや短文を聞き取れる、使えるようにしている。

「読ませる」ために取り入れた手法

- ①漢字をピンイン抜きで提示し、読む練習をさせる。
表2のように、あえて漢字をピンイン (アルファベット形式を用いた漢字の表音文字) 抜きで提示し、その練習を自学自習や会話強化コースの時間帯でさせ、正確に読めるようにしている。ここで、学習者の自己成長や達成度を実感させ

るために、授業内容と検定試験を連携させる手法を取り入れていることを強調しておきたい。たとえば、表2で提示しているのは、HSK 試験1級 (最下級) で要求される基本的な語彙のすべてである。このくらいの量の語彙を、学生は一般的に2、3週間でクリアできる。達成できたことによって彼等に自信が付き、より高いレベルに挑戦するようになる。それがこの狙いである。

また、日常で実際に使える表現を学んでいることを実感させるために、各段階の各々の語に対応する常用フレーズや常用表現を正確に読めるように求めている。

- ②language partner について繰り返し読み練習をし、正しい発音をマスターさせる。
単語を表2のような形で提供し、一回につき2列まで language partner である留学生の発音を

表3 新HSK 一級 頻出単語一覧 — 品詞分類表

単語	ピンイン	参照頁	単語	ピンイン	参照頁
人稱代詞					
你	nǐ	p. 111	火車站	huǒchēzhàn	p. 111
他	tā	p. 999	家	jiā	p. 999
她	tā	p. 111	今天	jīntiān	p. 111
我	wǒ	p. 111	老師	lǎoshī	p. 111
我們	wǒmen	p. 999	媽媽	māma	p. 111
指示代詞			貓	māo	p. 999
那	nà	p. 111	米飯	mǐfàn	p. 111
那兒	nàr	p. 999	明天	míngtiān	p. 111
這	zhè	p. 111	名字	míngzi	p. 111
這兒	zhèr	p. 111	年	nián	p. 999
名詞			女兒	nǚ'ér	p. 111
爸爸	bàba	p. 111	朋友	péngyou	p. 111
北京	Běijīng	p. 999	蘋果	píngguǒ	p. 111
杯子	bēizi	p. 111	錢	qián	p. 999
不客氣	búkèqi	p. 111	前面	qiánmiàn	p. 111
菜	cài	p. 111	人	rén	p. 111
茶	chá	p. 999	日	rì	p. 999
			商店	shāngdiàn	p. 111

表4 HSK1級で求める文法事項（品詞編）

品 詞	用 途	要求する語彙、内容、用例
代 詞	人称代詞	我 你 他 她 我 们 你 们 他 们 她 们
	指示代詞	这（这儿） 那（那儿）
	疑問代詞	谁 哪（哪儿） 什么 多少 几 怎么 怎么样
数 詞	時間の表現	時刻、年月日、曜日 8点40分 2009年7月7日 星期五等
	年齢の表現	年齢の言い方、尋ね方 他今年24岁了。 你今天多大了？
	値段の表現	値段の言い方、尋ねかた 15块 多少 钱？
	番号の表現	電話番号などのいいかた 我的电话号码是 08069397377
量 詞	数詞の後	个， 本。 一个， 三本
	指示代詞の後	这、 那、 几、 哪。 这个 那些 几本
副 詞	否定副詞	不 没。 不是学生。 没去学校。
	程度副詞	很 太。 很漂亮。 太好了。
	範囲副詞	都。 我们都去学校。
接続詞		和。 我和你
介 詞		在。 住在北京。
助動詞		会 能。 会做饭。 什么时候能来。
助 詞	構造助詞	的。 我的电脑。
	語気助詞	吗 呢。 他是医生吗？ 你在哪儿呢？
感嘆詞		喂。 喂，你好。

模倣しながら、正しく読めるように要求している。また、これらの単語を用いた常用表現も言えるように求めている。

- ③CALL 教材で模範読みを提供し、これらの単語の読みを常時学習できるような学習環境を提供している。

「使える」ようにするために取り入れた手法

- ①それぞれの単語や語彙を用いて短文を作れるように指導している。とくに各々の単語に対応する常用フレーズをマスターし、使えるようになることを求めている。
- ②単語・語彙を品詞による分類し、各段階で要求する単語と文法事項を連結させる。単語を品詞による分類することによって、その単語を文中でどのように使うかを明確にさせる。

ここで紙面上の制約もあり、表2の単語を品詞ごとに分類して分けたものの一部のみを表3に提示する

少し分かりずらくなっているが、「参照頁」欄はその語を用いた例文を参照できるように設けた項目である。

HSK1級で要求する文法事項を次のように分かりやすくまとめて、学習者に与えている。

文の構造に対する要求から見たとき、HSK1級では、陳述文、疑問文、命令文、感嘆文、“是……的”を用いる強調文等の簡単な使い方のみを求めている。

表2と表4および求めている文構造の説明から分かるように、各種検定試験のそれぞれの級で語彙数や文法事項をきちんと整理して見ると、各級で求めているものはそれほど難しいものでは

ないことがわかる。本コースでは、このような手法で、学習者に達成感や自己成長を感じさせている。

- ③language partner と学んだ単語・語彙を用いて会話をさせる。
ここでは、学習者のコミュニケーション能力の向上を目指している。

5. まとめと今後の課題

上記の教育方法を通して、国際キャリア中国語特別コースの学生たちの語学力が短期間で、目に見える形で伸びた。彼らに採用した教育手法や学習課程を振り返って見ると、語学力の基石となる単語学習に取り入れた手法が効を發したと言える。

彼らに対し、まずやる気を引き起こすために、教材内容を学習し易いような形で提供し、何時でも・どこでも無理なく覚えられるよう、さまざまな媒体で教材を提供した。提供した教材内容に対して「聞かせる」、「読ませる」、「使える」練習を徹底させた。また、language partner を学習課程に投入することにし、学んだ表現を実際に使えるような環境を作った。それと同時に、彼らの自己成長を目に見えるような形で示し、彼らの学習に対する自信を引き立てることに成功した。その結果、彼らが自然により一層高いレベルを目指すようになってきた。

だが、学生の達成結果は良かったとは言え、学習環境が完備されているとは言えない。今の若者の行動に注目すると、情報交換はほとんど携帯電話などでやり取りする傾向にある。教材をiPhoneなどのような携帯便利な器具でも提供できるようにし、学習者の層やニーズに応え、無理なく学習できる教育システムを開発することが今後の課題である。

参考資料

- [1] 柴田義松他『教育の方法と技術』学文社（2005年4月）
- [2] ビラール イリヤス 「コンピュータを用いた語学教育の現状分析」立命館経済学 第50巻 第5号 227～239頁（2001）
- [3] ビラール イリヤス 「インターネット時代の語学教育について」立命館教育科学研究第15号 1～6頁（1999）
- [4] ビラール イリヤス「インターネットを活用した中国語発音ソフト」立命館大学教育科学研究 第16号 p89～96（2000年）
- [5] ビラール イリヤス「中国語学習におけるインターネット活用の意義」立命館大学言語文化研究 第12巻 第2号 p123—130（2000年）
- [6] ビラール イリヤス「インターネットを活用した中国語学習教材」コンピュータ&エデュケーション Vol. 9 p114—118（2000年11月）
- [7] ビラール イリヤス「語学用 Web 教材に汎用性をもたらす試み」コンピュータ&エデュケーション Vol. 11 p114—118（2001年11月）
- [8] 吉田晴世、三根浩、竹内理、吉田信介、佐伯林規江 「マルチメディア型英語 CALL システム—自作ソフトの可能性—」コンピュータ&エデュケーション Vol. 1 85～90頁（1996）。
- [9] 町田隆哉、山本良一、渡辺浩行、柳善一『新しい世代の英語教育 第3世代の CALL と「総合的な学習の時間」』松柏社（2001年4月）
- [10] 田辺鉄「携帯電話を利用した中国語授業」コンピュータ&エデュケーション Vol. 9 p104—108（2000年11月）